

文部科学大臣 萩生田光一様
文化庁長官 宮田亮平様

大妻女子大学にて専任講師を務めております、森功次と申します。^{もりのりひで}

わたしはこれまでに、日本学術振興会特別研究員奨励費や、科学研究費補助金など文部科学省関連の研究援助を何度か受けてきました。また所属する大妻女子大学も、私学助成の形で多くの助成金を受け取っています。

この度のあいちトリエンナーレへの補助金全額不交付という決定につきまして、以下にわたしの意見と要望を記します。

この度の決定は多くの人が驚いた前代未聞のものであり、かつ、全額不交付という重い判断であるにもかかわらず、その決定プロセスがあまりにも不透明なものとなっています。文化庁の発表では、短い表現で一応の理由が提示されていますが、その内実は不明瞭なところが多く、何が問題だったのかについて、多くの人が理解に困っています。しかも報道によれば、決定までの議事プロセスも残っていないということでした。結局これほど話題を呼んでいる問題であるにもかかわらず、誰が判断したのか、どの職務の人が承認したのか、その調査すら難しい状況です。

不明瞭な理由づけと不透明なプロセスで、逆らうこともできないまま、補助金不交付という重い判断が下される。そのような前例が成立しようとしている現状に、わたしは強い危惧を抱きます。

この度のあいちトリエンナーレをめぐる議論は、もはや歴史認識や価値観の対立から、日本が民主主義国家としての機能を維持できているのかという点へと、問題のフェイズが変わりました。権力者の恣意的な判断が大きな影響をもたないように、歯止めをかける機構を用意しておくことは、民主主義国家の基盤をなす重要な工夫ですが、現代の日本においてその国家の基盤機能が本当に働きうるものなのか、いま多くの人が疑念を抱き始めています。日本は今、世界からの信頼を失いつつあるのです。9月下旬の文化庁の発表以降、多くの人々から矢継ぎ早に反対声明が発表されていることは、問題のフェイズが完全に変わったこと、そして、この問題が非常に重要なものであることを示しています。

このように状況が進行した今、問題はもはや「全額不交付」という判断の理由づけができるかどうかではありません。国としての信頼が失われつつある今となっては、今回の判断を誰がどのように下したのか、そして誰が承認していったのか、を明らかにせねばなりません。多くの意見対立が絡む問題であるからこそ、そして多くの人が疑いの目を向けているからこそ、より丁寧な情報開示と説明が必要となります。今回の判断、そしてその理由づけが正当なものであるかどうかは、議事プロセスの内実が明らかになってから、あらためて検証されるべきでしょう。

以上のような理由から、わたしは以下のことを求めます。

1. 今回の判断が下されるまでの議事および上位職までの承認過程を明らかにすること。
2. 全額不交付という重い判断がなされた理由をより詳細に説明すること。

令和元年 10 月 3 日

大妻女子大学 国際センター 専任講師 森功次